



目次

ごあいさつ

主催者

特別寄稿 早雲庵伊勢宗瑞と箱根湯本早雲寺

家永遵嗣

総論 早雲寺をめぐる文化と権力

—— 小田原北条氏・玉縄北条氏・狭山藩北条氏とのつながり ——

渡邊浩貴

早雲寺世代法系図 28

小田原北条氏・玉縄北条氏・狭山藩北条氏 略系図

29

プロローグ 早雲寺の創建と至宝

31

1 章 霊場としての箱根

39

トピック1 『箱根権現縁起絵巻』の世界

古川元也

コラム1 正眼寺の地藏信仰とひろがり

58

2 章 関東足利氏の美術と絵師

61

コラム2 酒吞童子物語の神話と東国

76

トピック2 戦国大名北条氏と関東公方

阿部能久

3 章 戦国大名北条氏と早雲寺住持

81

トピック3 明叟宗普の生涯とその法嗣たち

渡邊浩貴

関連地図

102

4 章 小田原の政治と文化

105

コラム3 取次・北条氏規の素養

111

5	章	早雲寺の復興と宝物……………	121
	コラム4	「願成就院修治記」の世界……………	133
6	章	狭山藩北条氏の由緒と治世……………	135
	トピック4	狭山藩北条氏の成立と治世……………	145
	エピソード	まもり、つたえられる早雲寺の寺宝群……………	147
	コラム5	近世武士の再就職活動……………	152
	コラム6	北条氏朝と柏州宗貞……………	159
	コラム7	近世・近代の早雲寺と廣徳寺……………	160
	各論	戦国大名北条氏と職人——「職人」を通してみた氏綱時代の小田原——……………	163
		北条氏と「唐絵」……………	170
		流転する北条五代画像と狭山藩北条氏の由緒——「物語」と「レガリア」の観点から——……………	176
		北条早雲像をはじめとする北条五代画像の転写と伝来について……………	183
		——神奈川県立歴史博物館所蔵狭山藩北条家伝来の下絵類の描写をめぐって——……………	183
		早雲寺記録 釈文……………	191
		早雲寺関連年表……………	197
		資料解説……………	207
		主要参考文献……………	250
		出品目録……………	252
		謝辞……………	258

早雲庵伊勢宗瑞と箱根湯本早雲寺

家永遵嗣

「北条早雲」こと早雲庵天岳宗瑞（伊勢盛時）の宗教生活を織りなした縁を考えると、曹洞宗の縁、箱根湯本早雲寺の創建に至る大徳寺との縁、臨済宗五山派との縁を見いだせる。

一、曹洞宗との縁

宗瑞は父盛定の頃から、曹洞宗との縁が深かった。

宗瑞の父伊勢盛定は永享二年（一四三〇）、曹洞宗の僧古澗仁泉を招いて備中荏原莊（岡山県井原市西江原町長谷）に法泉寺を建立した。⁽¹⁾法泉寺に程近い備中草壁莊（小田郡矢掛町横谷）には応永一八年（一四一一）に喜山性讃の開いた洞松寺があった。⁽²⁾古澗と喜山は加賀仏陀寺太源宗真の流れを汲んでいるから、交流があったと思われる。

備中の有徳人と思われる竹井玄保という人物が、文安六年（一四四九）四月に洞松寺⁽³⁾、享徳元年（一四五二）二月に法泉寺⁽⁴⁾に、土地を寄進している。法泉寺への寄進は、竹井玄保が伊勢盛定に土地代錢を融通した売寄進である。法泉寺・洞松寺は備中国の地域社会との関係でも交流があったと推定できる。

喜山性讃と洞松寺は、東海地方の曹洞宗との間に類い希な深い交流関係があった。

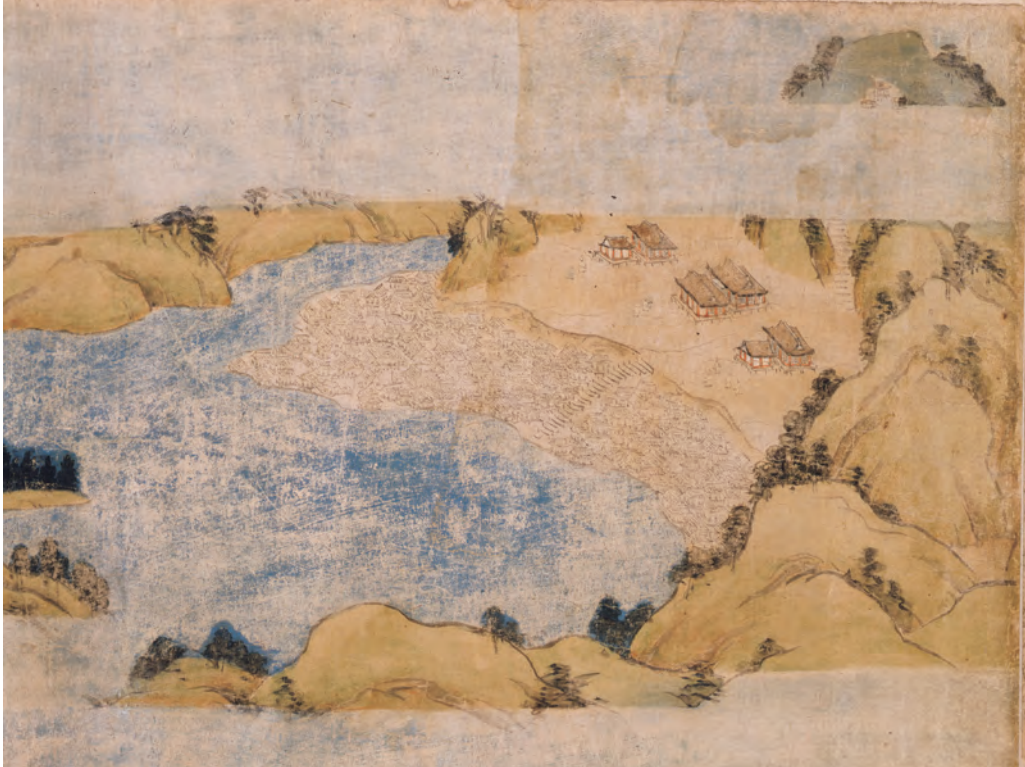
喜山は遠江に大洞院（静岡県森町橋）を開いた如仲（恕仲とも）⁽⁵⁾天間の弟子で、後に遠江に石雲院（静岡県榛原町坂口）を開く崇芝性岱の師にあたる。崇芝は応永末年に大洞院の如仲のもとで得度し、大洞院を訪ねた喜山が、崇芝の法器を見込んで備中洞松寺に伴い帰った。崇芝は喜山のもとで修行し、嘉吉二年（一四四二）に喜山が没したあとは後継者の茂林芝繁に従った。⁽⁷⁾文安六年（宝徳元・一四四九）に洞松寺住持となり、康正元年（一四五五）に遠江に帰って石雲院を開いた。「郡将葛股氏（勝間田氏）」が田地を寄進して外護したという。⁽⁸⁾茂林は文明一九年（長享元・一四八七）二月に崇芝を洞松寺に呼んで「後事」を託したという。宗瑞が駿河に下るのはこの年のことだった。崇芝は備中洞松寺との関わりを維持していた。

応仁の乱の直前の寛正六年（一四六五）、「勝田（勝間田）修理亮」「横地鶴寿」は、足利義政の「申次」すなわち取次役を務めていた伊勢盛定と連繫していた。⁽⁹⁾勝田（勝間田）氏と崇芝性岱との関係が盛定と勝間田氏との絆の裏打ちになっていたのではあるまいか。

駿河国益津莊小河（焼津市）の有徳人「法栄長者」長谷川氏は、文明三年（一四七一）に曹洞宗の僧賢仲繁哲を招いて小河に林叟院を開いた。『日本洞上聯燈録』によると、賢仲繁哲は「出備中平氏、年甫十二、禮洞松茂林和尚披剃」したという。備中出身の人で、茂林芝繁について洞松寺で出家した。その年齢「年甫十二」の時期は、享年から逆算して文安六年（宝徳元・



第一段 常在御前の島流し場面



第十一段 箱根三所権現の景観

2章

関東足利氏の美術と絵師



戦国時代、東国社会の伝統的権威として存在していた関東公方足利氏の周辺には、豊かな文化圏が作り上げられていた。それは、鎌倉から古河へ動座した後も活発であり、京都から招かれた関東画壇絵師たちの多くの資料からも裏付けられよう。関東へ進出を果たした北条氏も、軍事的基盤の伸長だけではなく、かかる足利氏の文化圏を吸収しかつ継承しながら寺宝の形成を果たしていく。政治史に加え、文化史の視座から戦国期東国史をとらえてみることで、美術品の作成・所持を通じた権力のあり様も垣間見えよう。





28 達磨図 式部卿忠筆
室町時代
早雲寺



39

◎ 北条早雲像

戦国時代
早雲寺

勅地係人靈鬱々法林之種草刹巨
 禪古赫々精藍之聲華宗清和尚早
 透機閑事涉夢海一喝一棒振威於
 乾坤三要三玄比德於山岳天上衆
 星拱北益見列位垂世間諸水趣東
 又貴朝宗矣禁闕達聽金湯躍名特
 賜正宗大隆禪師

天文十一年二月三日

當寺為勅教所
 創致佛法之隆
 巨奉為 皇恩
 天祐如親王位
 主事亦為皇恩
 早雲寺禪師得志
 早雲寺禪師在焉



71

○北条氏康像

戦国時代
早雲寺